

苫小牧市公設地方卸売市場運営審議会

日 時 平成29年5月25日(木)

午後 3時00分 ～

開催場所 苫小牧市公設地方卸売市場

青果棟 2階会議室

第 20 期 第 2 回 運 営 審 議 会

1 開 会

2 議 題

【 審 議 事 項 】

- 1) 経営展望の策定について
- 2) 先進市場視察研修について
- 3) 市場西側駐車場について

3 その 他

- 1) 平成28年度取扱状況について
- 2) 市場開放(市場まつり)について
- 3) その他

苫小牧市公設地方卸売市場運営審議会出席委員名簿

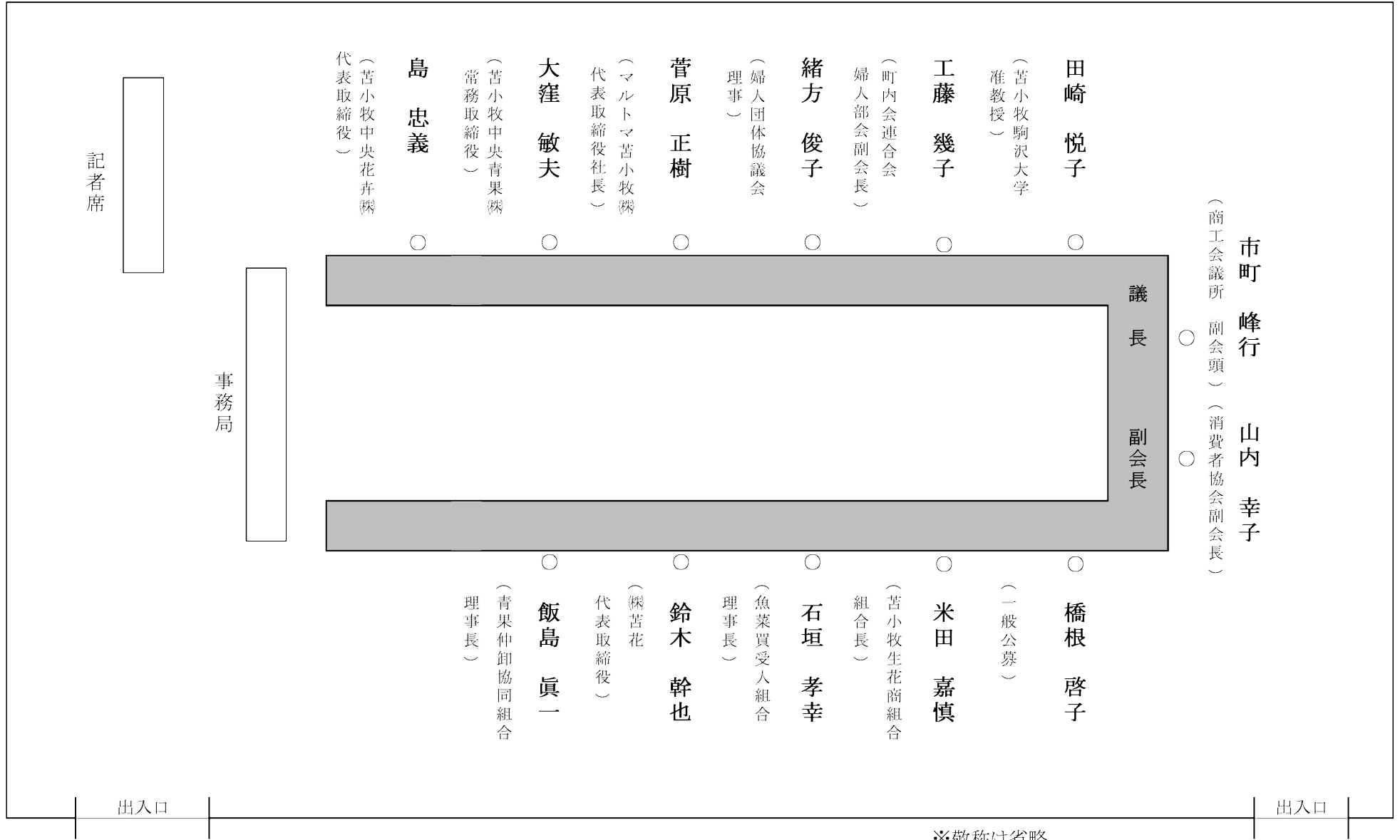
第20期-第2回

平成29年5月25日開催

区 分	所 属 別	役 職 名	氏 名	出 欠
学識経験者	苫小牧商工会議所	副 会 頭	市 町 峰 行	○
	苫小牧駒沢大学	准 教 授	田 崎 悦 子	○
消 費 者	苫小牧市町内会連合会	理 事	佐 々 木 功	×
	苫小牧市町内会連合会婦人部会	副 会 長	工 藤 幾 子	○
	苫小牧市婦人団体連絡協議会	理 事	緒 方 俊 子	○
	苫小牧消費者協会	副 会 長	山 内 幸 子	○
卸 売 業 者	マルトマ苫小牧卸売株式会社	代表取締役社長	菅 原 正 樹	○
	丸一苫小牧中央青果株式会社	常 務 取 締 役	大 塚 敏 夫	○
	苫小牧中央花卉株式会社	代 表 取 締 役	島 忠 義	○
仲 卸 組 合	苫小牧青果仲卸協同組合	理 事 長	飯 島 眞 一	○
	株 式 会 社 苫 花	代 表 取 締 役	鈴 木 幹 也	○
買 受 人 組 合	苫小牧魚菜買受人協同組合	理 事 長	石 垣 孝 幸	○
	苫小牧地方青果商業協同組合	副 理 事 長	田 中 敏 彦	×
	苫小牧生花商組合	組 合 長	よ 米 田 嘉 慎	○
一 般 公 募	一 般 公 募	-	橋 根 啓 子	○

出席者 13名

公設地方卸売市場運営審議会『座席表』



経営展望の策定について

～市場のあり方の検討について～

1.公設地方卸売市場に沿革について

産業経済部産業振興課
公設地方卸売市場

昭和28年 6月 生鮮食料品の円滑な流通と取引の適正化を図り、市民の食生活の安定に資するため、北海道初の公設魚菜卸売市場として浜町に開設、業務を開始いたしました。

昭和41年本市及び近隣人口の増加に伴い取扱量が増大したことにより、施設が狭隘となり、汐見町、西港漁港区内(現在の水産物部)に移転いたしました。

昭和46年 青果物の需要の増大に伴い、青果部を港町(現在の青果部)に分離独立し、花卉部を昭和50年開設、昭和56年分離・独立、平成9年に施設狭隘のため末広町に現在の青果部)移転新築し、現在に至っております。



1-① 水産物部について

取扱品目

鮮魚、塩干物、冷凍品、水産加工品等

卸売業者

マルトマ苫小牧卸売(株) (昭和28年5月設立)
資本金 24,000千円 (市出資 14.2%)
従業員 15名 (男性14名、女性1名)

仲卸業者

なし

沿革

- S28.6 北海道初の公設魚菜卸売市場として浜町に開設・業務開始。
- S41.6 施設の狭隘化のため汐見町（現在地）に移転。
- H25.3 冷凍倉庫を新築。

取扱高

平成26年度	15,253トン	75億3千万円
平成27年度	14,896トン	80億0千万円
平成28年度	11,345トン	75億6千万円

利点・強み

- 前浜には潤沢な水産資源があり観光的にも水産物は重要である。
- 卸売会社は、近年安定した収益があり経営基盤は安定している。

課題・弱み

- 昭和41年建設の施設であり、狭隘・老朽化問題がある。
- 利便性や流通を考慮すると現在地が最適であるが、港湾計画上は埠頭用地であり、荷捌き上屋として許可を得ており、都市計画市場であり、現在地での建替えは事実上、困難である。
- 産地市場の機能も有しており、近年、衛生管理の向上が求められている。

市場の様子



1-② 青果部について

取扱品目

野菜、果物、農産加工品

卸売業者

丸一苫小牧中央青果(株) (昭和46年10月設立)
 資本金 25,000千円 (市出資 23.7%)
 従業員 18名 (男性14名、女性4名)

仲卸業者

3社

(株)コ・ジャスナ、合同青果(株)、道南青果(株)

沿革

- S46.11 公設魚菜卸売市場から、青果部を分離独立。
- S53.7 仲卸制度を導入。
- S54.2 低温流通センターを設置。
- S56.7 青果部増築工事を施工。
- H18.12 パッケージセンターを青果棟東側へ移転改築。

取扱高

平成26年度	13,965トン	31億7千万円
平成27年度	13,306トン	32億7千万円
平成28年度	11,981トン	32億3千万円

利点・強み

- 陸・海・空の交通要所の苫小牧に立地している。
- JAとまこまい広域、道央JA等野菜・メロン等の産地がある。
- 業歴が長く、産地や他市場との集荷・分荷のルートを持っており、商品知識が豊富な人材を有している。

課題・弱み

- 昭和46年建設の施設であり老朽化問題がある。特に旧式の集中暖房方式や配管の老朽化などもあり効率が悪く、光熱費が高額。
- 物流の変化などにより市場経由率が下がり、取扱高は最盛時の半分以下まで落ち込んでいる。
- 卸売会社は、自己資本比率が高く、無借金経営であるものの取扱量減少による影響で、経営環境は厳しい。

セリの様子



1-③ 花卉部門について

取扱品目

切花、鉢物、花木類

卸売業者

苫小牧中央花卉(株) (昭和56年10月設立)
 資本金 15,000千円 (市出資 20.0%)
 従業員 4名 (男性2名、女性2名)

仲卸業者

(株) 苫花

沿革

- S50.10 花き部を開設。
- S56.12 花き部を分離・独立。
- H9.4 末広町に新築移転。

取扱高

平成26年度	6,92万本	5億2千万円
平成27年度	6,84万本	5億3千万円
平成28年度	6,29万本	5億1千万円

利点・強み

- JAとまこまい広域、むかわ町・三石など・近隣に産地が多い。
- 空港に近いので、輸送コストが低い。
- 商品知識が豊富な人材を有している。
- 平成9年に建設された施設であり、耐震基準も満たしており、修繕負担も少ない。

課題・弱み

- 冠婚葬祭の様式変化などにより、取扱高は減少しており、将来的にも、大幅な増加は見込まれない。
- 事業規模が小さく、収益力は低い。
- 卸売会社は、自己資本比率が高く、無借金経営であるものの取扱量減少による影響で、経営環境は厳しい。

市場の様子



2. あり方の検討経過について

苫小牧市の市場は事業開始から60年以上経過して、公設の使命である食の安全・安心供給については一定の成果を得られたと考えておりますが、市場を取り巻く環境は、少子高齢化時代を迎え、生活慣習の変化や流通の多様化などから今後は取扱高の低迷が予想されております。

以上のことから本市は、行政プラン-NEXT STAGEの中の「民間に委ねることが可能なもの、民間になじむものは民間へ」の考え方を基本として、「将来にわたって市民への安定供給の機能を維持する」ことを大原則に、より効率的で活性化に結びつく民間活力を活かした管理運営のあり方について、指定管理者制度を軸に平成28年度中の導入を検討しておりました。

また、平成27年7月に実施された行政事業診断の意見を受けて、民営化や他の手法についても同時に検討してまいりました。

しかしながら、整理すべき課題が顕在化してきたため、導入までには至りませんでした。

3. 課題の整理について

●市場を取り巻く環境の変化

- ・市場外流通の増加や冠婚葬祭の変化による、野菜・果物離れ等による取扱量の減少問題。
- ・公設としての意義の検証及び卸売市場法の抜本的な見直しの方向性の情報収集。

●管理運営方法に関わる課題

- ・指定管理者制度や民営化した場合の受皿となる団体の協議、調整。
- ・PFIや輸出拠点市場などその他の管理方法の是非。

●施設維持に関わる課題

- ・老朽化した施設の維持管理や衛生管理を含む将来の整備方針。

●市場運営に必要な収入源の確保

- ・取扱高の減少による使用料収入の減や、施設維持に関わる費用など今後の市場運営に必要な経費の確保や、管理運営にあった会計方法の調査・研究。

4.課題に対する取り組みについて

●市場を取り巻く環境の変化

- ・「市場まつり」など市場の一般開放やホームページ、広報によるPRなど活性化策を積極的に行い、消費者ニーズを把握し、購買意欲促進を図る。
- ・国や他の卸売市場の動向について、先進都市の視察や各種団体の会議など通じて情報収集する。

●管理運営方法に関わる課題

- ・市場関係者、市場審議会の意見を伺いながら最適な管理方法の方向性を検討する。

●施設維持に関わる課題

- ・水産棟及び青果棟の劣化度調査を行い、現施設の長寿命化を含めた将来の整備計画を作成する。

●市場運営に必要な収入源の確保

- ・施設の整備計画、取扱量の動向を考慮して収支を推計し、将来の資金計画を作成する。
- ・同時に、管理運営にあった会計方法の調査・研究をする。

5. 今後の方向性について

国により、地方卸売市場に策定するよう示された経営展望について、本市場も平成30年度に策定を予定している。

(市場審議会の中で、合議機関として部会設置して検討体制を整備する)

経営展望の中には、市場のあり方や位置付け、機能強化等の方向、将来の市場施設の整備の考え方、コスト管理も含めた市場運営方針などを明文化するよう示されている。

平成29年度は事前調査として、建物の劣化度調査を実施する予定であり、今後は、市場関係者、市場運営審議会などの意見を伺いながら総合的に検討し、経営展望の中で今後の市場のあり方の方向性を示していく。

6. 経営展望とは

○ 第10次卸売市場整備基本方針/農林水産省（平成28年1月）

平成32年度を目標に、各卸売市場が経営戦略的な視点をもって、産地や需要者との共存、共栄の下、健全に発展していくよう、その機能・役割の更なる強化・高度化を基本としている。
・基本的な考え方は

①卸売市場における経営戦略の確立

- ②立地、機能に応じた市場間における役割分担と連携強化
- ③産地との連携強化と消費者、実需者等の多様化するニーズへの的確な対応
- ④卸売市場の活性化に向けた国産農林水産物の流通・販売に関する新たな取組の推進
- ⑤公平かつ効率的な売買取引の確保
- ⑥卸売業者及び仲卸業者の経営退出の強化
- ⑦卸売市場に対する社会的要請への適切な対応

○第10次北海道卸売整備計画（平成28年12月）

本市場は「地域拠点市場」として設定され、国の基本方針に基づき、生鮮食料品等流通において重要な役割を担う地方卸売市場であって、**経営展望を策定**し、それに即して意欲的に市場機能の強化等に取り組むとされた。

【道内の地域拠点市場/6市場】

札幌花き(準公)、室蘭市公設、苫小牧市公設、旭一旭川、マルキタ北見、帯広

【強い農業づくり交付金】

国の見解では、今後、輸出などの新しい試みや、品新管理の高度化などを目的とした施設整備に関し、国の「強い農業づくり交付金」を活用する場合には、都道府県の「整備計画」の中に「地域拠点市場」と設定されている必要があり、地域拠点市場について「経営展望」の策定していくことが必須要件となっている。今後、当市場が何らかの施設整備することになった場合に、国の交付金を活用できる可能性が広がる。

7. 経営展望策定スケジュール(案)

年 度	月	内 容
平成29年度	5月25日	市場運営審議会開催（策定について説明・スケジュール提示）
	6月	市議会委員会報告（あり方、経営展望） 建物劣化度調査実施（～9月）
	7月中旬	市場運営審議会（合議機関の規約、部会設置案） 及び先進市場視察
	10月	部会実施（各部門部会・基本戦略など）
	12月	市場関係者からの意見照会
平成30年度	5月	市場運営審議会開催（基本戦略・行動計画提示）
	6月	部会実施（各部門部会・基本戦略など）
	8月	市場運営審議会（素案作成）
	10月	市場関係者からの意見照会 （※パブリック・コメントの実施）
	12月	市議会委員会報告
	3月	経営展望策定

先進市場視察研修について

～7月中旬に道北・道央市場の視察(1泊2日)を提案～

- ・富良野市(公設市場)・・・民営化検討中
- ・札幌花き地方卸売市場・・・第3セクター
(平成29年度経営展望予定)
- ・旭一旭川地方卸売市場・・・民間市場

上記市場のうち2市場を予定。

運営委員会視察実施状況(過去20年)

年 度	視 察 先	実 施 時 期
平成10年度	帯広市(市場視察・産地視察)	11月4日～11月5日(1泊2日)
平成11年度	函館市(市場視察)	10月13日～10月14日(1泊2日)
平成12年度	室蘭市(市場視察)	3月28日～3月29日(1泊2日)
平成13年度	—	
平成14年度	—	
平成15年度	—	
平成16年度	—	
平成17年度	—	
平成18年度	札幌市(市場視察)	8月29日～8月30日(1泊2日)
平成19年度	—	
平成20年度	—	
平成21年度	旭川市(市場視察)	11月11日～11月12日(1泊2日)
平成22年度	—	
平成23年度	—	
平成24年度	—	
平成25年度	函館市(市場視察)	8月22日～8月23日(1泊2日)
平成26年度	—	
平成27年度	札幌市・小樽市(市場視察)	11月5日～11月6日(1泊2日)
平成28年度	—	
平成29年度	富良野市・札幌花き・旭川市(内2市場視察予定)	7月中旬(1泊2日)



札幌中央市場会議室～DVD上映



札幌中央市場会議室～展示室



場内は自動節電は暗くなっている。



一般会計の事業で太陽光発電装置を設置

平成27年度
先進都市視察研修の様子
札幌中央卸売市場
小樽水産地方卸売市場
小樽青果地方卸売市場



小樽水産会議室



取扱量減少と老朽化が深刻な問題



小樽青果市場



構造や広さは、本市とほぼ同じ。



COMPANY

[会社情報]

富良野圏域の拠点市場として、生鮮食料品の安定供給確保に努めて
おります。

大正14年8月、富良野魚菜卸売市場株式会社として創立いたしました。

以来、魚介類、加工水産物及び青果物等の卸売業務を行っております。昭和49年4月には、
富良野市公設地方卸売市場として開設、富良野圏域の拠点市場として市民の台所として、生鮮食料
品の安定供給の確保に努めております。

取引の適正かつ健全な運営を図り、合理的な流通と衛生的な管理のもと、卸売市場法に基づいて、
富良野圏域の拠点市場として運営しております。

OVERVIEW [会社概要]

【 札幌花き地方卸売市場 】 札幌市を中心とした周辺地域の方に新鮮な切り花、鉢物、花木、苗を提供しています。



お問い合わせはこちら

交通アクセス 個人情報保護方針について サイトマップ

札幌花き地方卸売市場について

[ホーム](#) < [札幌花き地方卸売市場について](#) < [札幌花き地方卸売市場の紹介](#)

札幌花き地方卸売市場について

札幌花き地方卸売市場の紹介

地方卸売市場のしくみ >>

市場・施設の概要 >>

札幌花き地方卸売市場の一日 >>

取扱状況データ(年別) >>

取扱状況データ(月別) >>

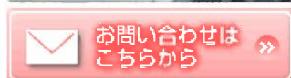
開市日カレンダー >>

開設者について >>

品評会

北海道花き品評会 切花の部 >>

北海道花き品評会 鉢花の部 >>



札幌花き地方卸売市場の紹介

経緯



札幌花き地方卸売市場は、国・道の卸売市場整備計画に基づいて、市内に分散していた3つの花き卸売市場を移転統合し、新たに札幌流通圏を中心とした拠点市場として、昭和56年4月に開設いたしました。

— 昭和55年度地方卸売市場施設整備事業 —

その後、取扱量が順調に増え、卸売場をはじめとする諸施設が狭あいとなったため、施設の増設が計画、実施され、昭和62年11月に増設施設が完成いたしました。

— 昭和62年度地方卸売市場施設整備事業 —

また、62年の増設後も予想を上回る勢いで取扱量が伸び、市場施設が狭あいとなり、加えて、今後も札幌市および周辺地域の人口の増加、個人消費の伸びが見込まれ、さらに稲作転換等による生産増、輸入花きの増加も見込まれることなどから、狭あい化を解消して、その後の円滑な花き流通を確保するため、再度、増設が計画され、平成4年11月に増設市場施設が完成いたしました。

— 平成4年度地方卸売市場施設整備事業 —

平成12年11月からは手狭であった、切花棟の仲卸売場の増設、改修工事に着手、平成14年4月には、一連の工事がしゅん工、現在の施設規模になっています。

[このページのTOPへ](#)

役割

花き園芸品は、市民の日常生活に欠かせないものですが、この市場は、札幌市を中心とした周辺地域の消費者に、新鮮かつ豊富でしかも安定した価格により供給し、道内の花き市場流通の5割以上扱うなど、中核的役割を担っており、平成13年度策定の第7次北海道卸売市場整備計画において、北海道の中核的拠点市場として位置付けられています。



[このページのTOPへ](#)

開設者

この市場の開設者(株式会社札幌花き地方卸売市場)は、適正な取引の推進等の観点から札幌市も出資した株式会社です。これは、地方公共団体と民間とが一体となり、それぞれの責任と権限を分担し経済性、能率性を追及していこうとするもので第3セクター方式と呼ばれています。



[開設者について>>](#)

[このページのTOPへ](#)

開設者 株式会社札幌花き地方卸売市場

〒003-0030 札幌市白石区流通センター7丁目3番5号 Tel:(011)892-1432 Fax:(011)893-1731

Copyright(c)2007 Sapporo Flower Wholesale Market CO.,LTD. All rights reserved.



- 昭和24年 7月 資本金380万円を以て旭一旭川魚菜市场株式会社を創立し、旭川市農業協同組合(現あさひかわ農協)が所有する6条通6丁目右10号の土地・建物を借り受け営業を開始。
- 昭和25年 5月 北海道魚菜卸売市場条例に基づき、社名を旭一旭川魚菜卸売市場株式会社に改称。
- 昭和32年 11月 旭川市都市計画に基づき旭川市当局の要請と協力により旭川駅構内隣接地に新市場建設を決定。
- 昭和33年 10月 工事落成、移転営業。
- 昭和43年 4月 旭川青果株式会社の業務一切を継承。
12月 昭和45年度より貨物取扱が北旭川駅に移行するにあたり市場施設の狭隘な実状から旭川市が造成する西永山流通団地に新市場建設を決定。
- 昭和44年 7月 旭川市より買収の西永山流通団地新市場建設用地13,800坪に、総工費4億9,000万円を以て新市場建設工事に着工。
- 昭和45年 3月 士別魚菜卸売市場株式会社の営業権を譲受取得完了。
6月 新市場落成、移転営業。
- 昭和47年 12月 地方卸売市場法施行にあたり旭一旭川地方卸売市場株式会社と改称。
- 昭和49年 3月 創設者筒井社長公務出張先にて急逝。
5月 二瓶社長就任。
- 昭和51年 6月 菅原社長就任。
- 平成2年 12月 士別市公設卸売市場、新市場落成移転営業。
- 平成4年 6月 工藤社長就任。
- 平成10年 12月 KLC旭一物流センター(延床面積6,033平方メートル)竣工。
- 平成14年 6月 中川社長就任
- 平成15年 7月 社名を「株式会社キョクイチ」に改称
- 平成18年 3月 生鮭・冷凍鮭加工場を新設。
4月 製氷工場の新設、食品検査室の新設及び第1セリ場改修。
- 平成19年 7月 ごみステーションを新設。
8月 ヤマト運輸(株)旭川物流センターキョクイチ倉庫を新設。
- 平成24年 6月 角谷社長就任
- 平成27年 3月 新社屋及び総合物流センター竣工



昭和24年～33年・6条6丁目(現NHK旭川)



昭和33年～45年・宮下通15丁目(現レーシングセンター)



昭和45年～平成27年・流通団地1条2丁目



平成27年～・流通団地1条2丁目

市場西側駐車場について

経緯

・市場関係者用の駐車場ではありますが、現状としては観光スポットとして、ぷらっとみなと市場など漁港区周辺の施設を訪れる観光客、買い物客、観光バスにも利用されており、また、周辺店舗の従業員が恒常的に利用している実態もありました。

青果棟は広い駐車場を有しており、市場運営に支障を及ぼすことはないのですが、市一概に制限することは行なってきませんでした。が、ぷらっとみなと市場の駐車場が手狭になり、事故対応も心配されることから、正式に有料で貸し出し出来ないか協議を重ねてまいりました。

この度、ぷらっとみなと市場側より正式に借受したい旨、申し出がありましたので、審議、ご承認願います。

手法

・現在は、卸売市場の行政財産(駐車場)として管理しているが、普通財産(遊休地)と財産の区分変更して、有料で賃貸借契約する。(別紙①及び②案で、貸付面積については現在協議中)

経過・予定

- ・平成29年3月 ぷらっと港組合より正式申し出。
- ・平成29年4月 市場連絡協議会(市場関係者)に説明、承認。
- ・平成29年5月 市場審議会に説明、承認。
- ・平成29年6月 ぷらっと港組合理事会、実測、区割。
- ・平成29年7月 契約、貸し出し。

